

# 今年も「京都講座」開講

～早稲田大学大学院生 和東で学ぶ～

早稲田大学大学院「京都講座」が、今年で6回目を迎えました。

この講座は、早稲田大学の大学院生が和東町に滞在してフィールドワークを行い、和東町のまちづくりの施策提案を行うものです。

一行は8月24日(日)、早稲田大学大学院の江上能義教授、北川正恭教授とともに和東町に来られ、6月、7月に行われた事前講座をもとに立てた仮説、和東茶カフェの周辺の活性化(A班)、湯船地区の活性化(B班)を検証するため、8月29日(金)までの約1週間の間、和東町でフィールドワークや住民、地元団体との意見交換などを行われました。

初日には和東のお茶を知るために、日本茶インストラクターの松石三重子さんのご指導により、お茶のおいしい淹れ方も体験されました。

最終日には、和東町社会福祉センター大ホールで、住民の皆さんを前に施策提案が行われました。

施策提案でA班は「茶源郷・和東の次のステップへ～交流人口25万人に向けて～」をテーマとし、和東茶を広く普及させる『茶薦土』認定制度の設立を、B班は「湯船から和東町の持続可能な未来を考える」をテーマとし、湯船区に共同店の設置や、ゆふねマウンテンバイクランドの魅力向上のための提案を発表されました。

和東町では今後学生の皆さんの提案をきっかけに、住民の皆さんと協働のまちづくりに一層取り組んでいきますので、よろしくお願いいたします。

\*施策提案発表の資料は和東町ホームページに掲載しています。



松石三重子さんのご指導によるお茶の淹れ方体験



施策提案発表を終えて



湯船区で行われた意見交換会

## 能代市から宇治茶研究の視察団が見えられました。

7月24日(木)から7月26日(土)までの3日間の日程で、秋田県能代市の茶農家の方など6名が視察に見えられました。

能代市のお茶(檜山茶)は1730年(享保25年)頃に檜山城主の多賀谷峰経が宇治から茶の実を取り寄せ、自家用茶園を造ったのが始まりとされていますが、現在は30アールほどしか残っておらず、現在も手摘み、手揉みといった製法で製茶を続けられています。

視察では京都府農林水産センター茶業研究所長から、品質や付加価値向上に向けての取り組みなどの説明がありました。また、和束で宿泊し、和束の茶農家からお茶の製造に係るノウハウを聞いたり製茶機械など視察され、現在の品種や製法に関心を持ちながらも、昔から品種改良されずに現在に残っている在来種のお茶や製法に、歴史的にも価値があることを再発見され、今後の観光資源等まちづくりに活かしていきたいと話されていました。



## 一緒に楽しくうたおう！ ～音楽鑑賞会 和束保育園～

9月17日(水)、和束保育園では、出張生演奏サービス「ルーエ」によるエレクトーンの生演奏会が行われました。

子ども達は初めて見る楽器に興味深々で、花火の音、動物の鳴き声、お化けの音などエレクトーンから聞こえてくる音に耳を澄ませていました。

そして、「アナと雪の女王」のテーマ曲やテレビでお馴染みの曲が流れると一緒に歌ったり踊ったりと、とても盛り上がりました。

子どもたちの希望で、アンコール曲も二曲弾いて頂き、「またきてくれるかな?」と早速次回を楽しみにしている園児の姿も見られ、楽しいひと時になりました。



## ご寄附ありがとうございました

「和束町ふるさと応援寄附金基金」へ次のとおりご寄附をいただきました。(平成26年8月)

氏名	住所	寄附金額
匿名希望	京都市	5,000円

ありがとうございました。

お寄せいただいた寄附金は、和束町のまちづくりのため有効に活用させていただきます